

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	美の世界への誘い
Author(s)	安田, 初恵 [ほか]
Citation	児童の言語生態研究 , 12 : 53 - 62
Issue Date	1985-05-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045137
Right	
Relation	



美の世界への誘い

安田初恵ほか

1 授業案

一日時 昭和五十八年八月五日(金)
午前十時十五分～十一時

二 児童 新潟県青海町立田沢小学校二年(安田級)
男子十四名、女子十六名 計三十名

三 領域 感情

四 授業テーマ 美の世界への誘い

五 授業テーマ設定の理由

「二年生の生活ぶりで特徴的なことは、「そうしななければならぬ。」とつけられてきた規範に従って生きようとするものがあげられる。もしそれを破ろうとする仲間があれば、即座に、「いけないんだ。いけないんだ。」と口走り、また、教師への告げ口となる。そし

て、自分はいかにも言われたことをきちんと守るいい子なんだといった態度が、往々にしてある。

しかし、このように、いい子ぶることは、決して子どもが自然な発達をしているとは考えられない。むしろ、これによって、精神発達に偏りが生じ、疎外され、抑制される面が多いのではないかと考えられる。

今回の授業では、規範に従って生きることによしとして、二年生の構えをくずし、もつと心楽しく、しかも質の高い世界があることに気づかせたい。そして、それは、物事に共鳴し、心の琴線がふるえる世界である。

沈んでいく夕日に対面して、「ギンギンキラキラ夕日が沈む。」のことばのイメージとして思い浮かべるとするなら、それはことばを介しての単なる観念であっ

て、それを共鳴しているとは言い難い。むしろ、夕日を前にして、素直な自己確認、あるいは、対象に没我した状態を共鳴していると言う。

しかし、没我した共鳴体のままでは、歌わざる詩人にすぎない。美を発見し、美を形成するためには、感情投映がなされねばならない。では、感情投映が行われるということは、どういうことか。本時の場合、教材の刺戟を受けた印象の言語化に外ならないが、そのためには、その印象の明確な把握がなされなければならない。つまり、外的世界の共鳴体としての自己の感覚や感情が、揺り動かされていることの発見だと仮説してみる。つまり、その発見過程を導き、その言語化を学習させたい。

六 指導計画(一時間扱い)

七 本時の目標 感情投映を目標とする。
八 本時の展開

学習活動	指導上の留意点
<p>1、本時の学習のめあてを確認する。</p> <p>○ 今日、みんなに、心に映ったことをもとにして、すばらしい写真をうつしてもらいます。</p> <p>2、範読を聞く。</p> <p>3、写真がとれそうかどうかを確かめる。</p> <p>4、夜の写真をとることを考える。</p> <p>○ 夜の写真をとったら、どんなだろう。</p> <p>5、黙読し、自分の写真を検討する。</p> <p>6、自分の描いた写真の視界を確認する。</p>	<p>○ 本時のめあてを知らせ、学習に見通しを持たせるようにする。</p> <p>○ 範読に合わせ、文章を目で追わせる。</p> <p>○ 色を消却し、物という想を除くために、夜の写真であることを確認する。(カラー写真ではいけな(5))</p> <p>○ 白黒板を利用して、色が白黒であることを指摘する。</p> <p>○ 写っている事物の確認によって、印象</p>

<p>○ 相互比較をする。</p> <p>7、全体印象について発表する。</p> <p>○ 自分がうまく写せたなど思うところを話してごらん。</p>	<p>が全体をなしつつあるかを打診する程度の確認をする。</p> <p>○ より広く、よりまとまりつつあるのは、どれかというところから、比較させる。</p> <p>○ 教材の刺戟を受けた印象の、言語化過程を見届ける。</p>
--	--

教材

ほたる

瀬底ノリ子作

ゆうべ ほたるを 見に いきました。
 高くて 大きな木が、よるの空を おおって
 ました。くらい 森の中に すいこまれるように
 ほそいみちが、つづいていました。ほそい みち
 の ぶんだけ 白い せんのように 木と木の
 あいだから よるの空が 見えました。

ほたるを 見るのは はじめてです。

おばあちゃんが、

「天の川が、天から おちてきたかと思うほどだったよ。」

と、はなして くれたのを 思い出しました。
 天から 天の川が、おちてくるって どんなふう
 なのだろう。わたしはいちどで いいから、ほ
 たるを 見たいと 思いました。

ふかい やみの中、ほそい みちを どこまで
 も どこまでも たどって いくと、どこからか
 水の においが してきました。すこし 森が
 ひらけました。

「あつ、ほたる。」

まっくらやみの 中を 小さい光が、見えなく
 れしながら、ゆるく ゆるく とびかっ
 ました。

「あれが ほたる。」

ほたるは おばあちゃんが いっていたよう
 に、天から おちた ほしくずのように 見え
 ました。しめった よるのにおいが たちこめる
 森の中を、高く、ひくく、音もなく ながれま
 した。

ちかくで 小さな 女の子が、

「二十一、二十二、二十三、二十四……。」

と、かぞえて いました。わたしも ころの中
 で、その子と いっしょに ほたるの かずを
 かぞえました。

「五十一、五十二、五十三、五十四……。」

ふと、あたりを 見まわすと 月は 出ていな
 いのに、よるの空が ぎん色に、かがやいて 見
 えしました。その 下には、くろぐろとした 大き

な森が、つづいていました。

すきとおった 白と黒の せかいに 見えま
した。

よるが こんなに よくみえる。ほたるの せ
いだ。わたしの からだにも よるの あかるさ
が しみこんで 光をだすのでは ないかと 思
いました。ほたるのように。

2 授業記録

(あいさつ)

Th それでは、今日のお勉強はね。みんなの心にう
つたことをもとにして、写真をとりませう。心の中
うつたことを写真で、心の写真だよ。うつす勉強
をします。

みんなの目の前に、さつき配った「ほたる」って
いうお話があるでしょ。これを読んで、どんなこと
が、みんなの心にうつるかな。心にうつしながら、
安田先生に読んでもらいますから、一緒に読んで下
さい。黙ってね。

Ty じゃ、みんなは、先生読むから、先生読んでこ
ろを、目の中でだまって読むんだよ。はい。

Tu ちょっと待って。写真をとったことのある人？

へえ。だいたいとっているんだねえ。今日は、カメ
ラなしだよ。今日は、カメラをみんな持ってきてな
いでしょ。一人、あそこに、カメラぶらさげている
おじさんがいる。ほら、だけでも、あのカメラは君
たちに貸してやらないから。どうやって写真とるん
だろうね。今日、さっきの先生が言ったでしょう。

心で写真とってもらうんだから。今から安田先生
が、みんなに配ったプリントを読んで下さるわけ
でしょう。みんなは、そのプリントを見ながら、心で
写真をとっていくんですよ。安田先生のお話を聞き
ながら、みんなが、そのプリントをじーっと見てい
ると、君たちの心に写真がでてくるようにして欲し
いの。わかる？ わかった人。おじさんが言った事
わかった人。わかった。さあ、写真がとれるか、と
れないかは、まだわからないね。でも、とるんだな
あってことがわかる人。

だいたい手が上がったな。じゃ安田先生。

Ty はい。「ほたる」を範読する。

Th さあ。みんなの心の中に写真がうつったかな。さ
あ頑張ってください。写真うつしてね。とびきり上
等のやつ。……写真がなんか、うつってきたみたい
っていう人、いますか。まだ、写真が、あんまりう
つってこないみたいっていう、そういう子が多いか
な。じゃあ、もう一度、今度は自分で、心の中で読
んで下さい。(児童、黙読する。)

さあ、もう一回、読めたかしら。どんな写真が見
えてきた？ お話して下さい。じゃ、まゆみちゃん
は、どんなものが、うかんできた？

まゆみ なんか、ほたるの数をかぞえているところが、
わたしも数をかぞえているような気がしてきました。
た。

Th そう。じゃ外に、何かうつった人いますか。手を
上げてね。おしえて下さい。まゆみちゃんはね。女
の子がほたるを数えている。そんな写真がうかんでき
たんだって。あ、たくや君。

たくや なんとなく……。あんまり、明るい感じのお

話じゃないと思う。
たかし 細い道が、細い道の前の上が、だんだん暗く
なってる……。

Th ああ、にってるね。たくや君とね。だんだん――、
暗くなってきて、外にありますか。まゆみちゃん、
ほたるは、どこにとんでるの。

まゆみ 森の中に……。

たくや 田んぼの近く。(黒板に、森や、ほたるの絵
を次々に貼っていく。)

Th さあ、今でたね。まだ外にありますか。

たくや 草のしめったようなとこ。

Th ああ、それは、ほたるがとんでいるところね。そ
れは、たくや君の心にうつった写真なんですか。
今、言ったのは。みんな、自分の心にうつった写真
のことを言えたいのよ。どんな写真だか、お話し
てくれればいいです。

Tu あのねえ、ちょっと先生がねえ、みんなのねえ手
伝おうと思って、あわててペタペタ貼り出したの
ね。あんなふうに貼られちゃ困るっていうふうに、
みんな言いなさい。先生は、みんなを手伝おうって
いうふうに思っているもんだから、一生懸命に貼り
出したんだけど、あんなことしたら僕の写真つぶ
れちゃう。あんな、森、上じゃないよだとか、もつ
と下だとかね、いろいろ注文つけないさい。それでな
いと自分の写真できないでしょ。せつかく先生が、
ああやってお手伝いしてくれただけ、あんなもの
あるから、かえって具合悪いっていうことになるかも
しれないでしょ。だからもつと右、もつと左、それ
いらないって、いろいろ言っちゃおうだ。先生も
ちゃんと、みんなに、聞きながらやって下さい。勝

手にやらないで。

Th 注文を出してあんなのは、僕の写真と違うよって。たくや 森が、もっと下の方にある……。

T肥 でも、あの、まゆみちゃんが、ほたるのこと、森のこと言ったから、まゆみちゃんに。

Th まゆみちゃんの頭の中にある写真は？ もう一度言って、今、その通りに作ってみるから。

まゆみ 森の中の木に、ほたるがとまっているような……。(絵を貼ってさく。)

Th こうかしら、まゆみちゃん。まだ、違う？ まゆみ これでもいい。

Th じゃ、これ、まゆみちゃんの写真なんだ。外にこんなじゃないっていう人。たくや君言ってみて。たくや 森が下の方で、ほたるが、上と下にばらばらにいる。

Th じゃ、やってみて、森は、下で、ほたるは、もっぱらばらに……。このくらい？ (絵を動かす。)

Th これでもいい？ たくや君、この絵にこだわらなくていいのよ。自分の写真が大事なんだからね。自分の写真に合わなかったら、ダメって言えばいいんですよ。外の人も、そうです。たくや君、本当にいいですか。

Tu 細い道とかあったじゃないですか。

Th ああ、さつき、ひろし君が言ったのね。ひろし君が言ったのは？ どうなの？

ひろし 森が、小さすぎる。

Th それで……。

ひろし ホタルが大きい。

Th それから……？ 道があったでしょう。

ひろし 道は、真ん中。(絵を変えていく。)

Th ひろし君いいかしら、首かしげてるね。いいんだよ、もっと違うよって言って。どう違う？ ひろし君の写真と違うところがある？ さつき、ひろし君、何か言ってたね。道の奥の方が……。

ひろし 暗い。

Th たくや君も、何か、さつき言ってたみたい。たくや君最初に言ったのもう一遍言ってみよう。

たくや 森とか、森の近くが、暗いわね。

Th 暗い方がいい？ みんな、暗い方がいいって言うんだけど、どう思う？ これ、とっても、きれいだね。明るいわね。(黒板の絵をさして) たくや君たちは、暗い方がいいって言うんだけど、みんなは、どう思う。明るい方がいいんだ、これで(絵のようで)いいんだと思う人もいるかもしれない。どうですか。

C もう少し暗い方がいい。

C 少しだけ暗い方がいい。

Th 松村さん、まゆみさんは、さつき女の子がほたる数えているって言ったけども、その時には、まわりはどうでしたか。まわりの感じは、どうでしたか？ まゆみ 暗かった。

Th みんなの心にうつった写真がね。明るい感じの写真がうつった人、暗い感じの写真がうつった人、どっちかな。暗い方がうつったって人、手を上げて下さい。僕の写真は、暗かったよっていう人。

Th じゃあ、明るかったよっていう人。(約一〇名 挙手する。)

Th (挙手 なし。)

Th あら、いない。では、手を上げない人は、まだはつきり写真が写ってないのかな。でも、だんだん——うつつってくるよ。きつと。じゃあ、ほとんどの人が、暗い写真なんですって。あ、はい、ひろし君。ひろし あ、なんか、ほたるのまわりに草がある。

Th ほたるのまわりに草があるの。じゃ、かいて下さい。(草をかく。)

Th こんなんでいいですか？ 近づきましたか、少しは。つお 水がなくて……。ほたるが、こっち側ばかりいる。

Th もっと、こっち側にいるんだ。たくや君は？

たくや 草のへんが、よくしめつてないみたい。

Th しめつてないみたい。うーん。そういえば、かわいているね。さつきも言っただけど、みんなの写真、だいたいの人が暗い写真だよって言った。だって、これ、夜だものね。このお話ね。夜だから、こんなに、色がないんですね。だから、みんなの心のフィルムは、カラーフィルムじゃダメなんだよ。白黒のね。夜をうつすんだから 白黒のカメラでうつすの。もう一度、前にお話、見ていいのよ。

Ti みんな、ほら、一回読んで、ひろし君と、まゆみさんと、たくや君が、こういう写真ができたよって言ったけども、だけど、なんか、みんな暗い方がいいって言ったでしょ。この先生が、夜だからよねって言ったね。夜の絵は、どうやって、写真は、夜の写真としてみる。夜をこん中に入れないかいいかなんだよ。どうする？ はい。

ひろし 黒い紙に、黒い紙に、貼った方がいい。

Ti ああ、こういうのを、黒い紙に貼ってくれた方が、ひろし君の夜が写真になる。なるほど、たくや君どうだ。

たくや 白い方でもいいんだけど、ほたるの近くをぬかしたところをもう少し暗くすれば、ほたるの光

が、目立つ。

Ti ああ、白がじゃまになるの。もう少し黒に近い方がいい。まゆみちゃんどう？

まゆみ 灰色を、黒っぽい灰色の紙に貼った方が、うす暗いって感じ……。

Ti あ、まゆみちゃんは、まっ黒じゃなくてうす暗い方が、夜の写真がとれるよっていうのね。じゃ、おねがいしますね。

Th じゃあ、この白い紙とってしまおうね。そしたら、もつとみんなの写真に近づくかもしれない。(黒板の白い下紙を取り去る。)

Ti さあ、ひろし君の注文どおりの色が出てきたよ。

さあ、そこでひろし君、森どうする。夜の写真でなきやだめなんだ。夜を写真にしなきやいけない。これ、のつける？ のつけない。

ひろし えつと、森の色をちよつと暗く、黒い色をちよつと、ぬる。

Ti あ、ここへ、おくんだけでも、このままの緑じゃ困る。もつと、この、こつちの黒の色に近い色にして欲しい。はい、お願いしますよ。画家の人。たくや君は、どうだ。この森おきますか。

たくや おいた方がいい。

Ti うーん。このままの色でいいですか。

たくや もう少し暗い方がいい。

Ti あ、やっぱり、ひろし君とおんなじ。外の人どうですか。この森おいてもいいよって人。はい、まゆみちゃん。

まゆみ おいていいけどひろし君のように、ちよつと黒くした方が、感じがでると思う。

Ti ああ、みんなは、じゃあ、夜の写真をとる時には、

だんだん——この、色が、じゃまになるわけだ。ねえ、じゃ、もつと、このおねえさんにぬってもらからね。もつと注文出して、もつと黒い方がいい、もつと明るい方がいい。ストップっていうんだよ。

(森の絵に黒い色を重ねる。)

Ti ちよつとストップね。ほら、この辺とこの辺ちがつてきたよ。たくや君。

たくや ほたるの方だけ、ほたるのけつの方だけ少し明るくした方がいいと思う。

Ti ああ、君には、君の頭は、森からはなれていって、夜の方へ、夜の写真の中に入ってきたわけね。だけど、ほたるのここんとこいらなんだな。胴体は、いらなんだね。君の写真の中には入ってないわけね。この光だけが欲しいわけね。そうなんだね。

たくや 大きければさ、光のまわりだけ、少し、明るい色でぬつたらいいと思う。

Ti うーん。ほたるをおきたいわけ。ここに入りたいの。どの辺に。ここにおく？ あ、ここにおく？ とんでるように。

たくや そして、近くだけ、きれいな色でぬる。

Ti ああ、そうか。この黄色と黒とが、あんまり、はつきりしすぎるから、いやなんだ。ね。もう少し、ここをぼかして、欲しいんだ。君の写真は、なるほど、だんだんむずかしい注文がでてきたぞ。あ、こつちの森の方、ひろし君、どう？ もつと暗い方がいい？ もつと色なくなつちやうな方がいい？ 外の人どう？ これくらいでいいよって人。まだ、緑色がじゃまだよって人。自分の写真、もつともつと暗い方がいいよって人。もつと暗い方がいいと思うで

す。墨かなんかないか。あ、墨は、のらないか。(森の絵、さらに黒く、クレヨンでぬる。)

これくらいでどうですか。よかつたら手をあげて、まだだめだっていう人は、手、上げないで。あ、ストップした方がいいみたいよ。ひろし君と、まゆみちゃんと、君、何ていったつけ、あ、だんだん手が上がってきた。この辺の感じぐらにもう、色をなくしちゃった方がいいわけね。外の人？ もつと暗くするの?! もつと暗くしていいっていう人、手を上げて。ああ、もつと暗くして欲しい。大変だ、これは、だんだん——いらなく、ちよつとストップして。ぎゃ、これ、ぬるの大変だからね。これ、なくしちゃうよ。(森の絵、とり去ってしまう。)

まゆみちゃん、こうやって、うなずいてくれたけど、どうしていいの？

まゆみ あんまりぬつても真黒になるだけだから、はずした方がいい。

Ti ああ、いっそのこと、森がない方がいい、ひろし君も、うなずいてたねえ。どうですか。

ひろし ぬつてもぬつても黒くなって森がないように見える。

Ti から、どう、このままおいておきますか。

ひろし おかない方がいい……。

Ti おかない方がいい……。外の人どうかな、まゆみちゃんが、おもしろいこと言い出したよ。夜の写真をとっていったら、森がじゃまになってきたから、もう、なくなつていい。はい、？君。

C 緑のところでだけ黒くなって木の辺が茶色いから、やめた方がいい。

Ti ああ、僕も、もうない方がいい。じゃあ、このま

までいいですか。みんなの写真は、このままで、ちゃんと森があるように写るんですね。夜の写真はね。じゃあ、たくや君がいつくれたほたるの方は、どうですか。たくや君の写真は、夜の写真は、ほたるの光を、ちゃんと、おいておきたいって。外の人どう、自分の写っている写真と比べてたくや君、はい、ひろし君、元氣よく手が上がった。

ひろし ほたるの光が、大きすぎる。

Ti 大きすぎる。もっちゃよとちっちゃくしなければ、ちっちゃく、いや、やぶいた方がいいな。これくらいでいい？（ほたるの絵の尻の光の部分を、指でまるくちぎる。）

ひろし まある方がいい。

Ti はい、じゃあ、きいてみよう。外の人、ひろし君の写真の中には、ほたるの光が、これくらいにうつって、みんなどう思う。外の人。同じくらいって人。ちがう？ まゆみちゃんどうちがう。

まゆみ それでは、ちっちゃすぎて、明りというように見えないから、もうちょっとだけ大きくしたいわい。Ti まゆみちゃんのは、これくらいかな。ね。満足した顔してるなあ。やと安心してきたな。へんだね。同じお話しんでひろし君の写真とまゆみちゃんの写真とちがってきたよ。たくや君は、さつきからがんばっているけどどうだ。君のほたるは？

たくや まゆみちゃんが言ったぐらいのいいんだけど、少し、まわりに白をうすくぼうすとぬれば……。

Ti 君、そこそここだわらんだな。いいんだよ。

そういう勉強しているんだよ。ねえ、たくや君、ここんところ、どうしても、こうやってぼかしたいわけだね。よし。特殊な技術つかうよ。たくや君の写真

には、こういうふうに写っているのかな。ねえ、ああ、満足した顔してくれた。ほかの人どう？ ひろし君。

ひろし 黄色じゃなくて白みたいなの……。

Ti あ、君は、これもう、黄色がじゃまになってきちゃうわけ、白がいいの。はあ、ひろし君、これでもいいか。

ひろし ？？（小さくてきこえない）

Ti ちょっと黄色が欲しいの。こんな感じでもいいか？

ひろし はい。

Ti 「はい」って返事してくれた。ほかの人、まゆみちゃん。

まゆみ たくや君の言ったように、それに、まわりにちょっと明るいような、差があんまりつきすぎると明りのような感じがしない。懐中電燈みたいな感じになっちゃうから、まわりに、ちょっと明るい色、ぬって欲しいです。

Ti もうちょっと、まゆみちゃんが言っていることは、こういうことか？ このまわりにこういうふうにするに、さらに、さらに、二年生でわかんないなあ。まゆみ わかる！

Ti わかる！ すごいなあ。こういうふうには、ちょっと、ぼかして欲しい。そういうこと？ ほかの人どう？ みんなの写真どうですか？ 森は、なくなっちゃった。森見えてるか。写真に見えてますか、ちゃんと、見えてる人。（たくや、挙手。）

Ti たくや君は、ちゃんと、このままで、自分の森の写真ができてる。すごいなあ。しかも、たくや君は、こういうふうには、ぼかしを入れてる。ね。いいよ。

たくや 下の方に、うすっぽく、草と池を、池があるって、いってたから、小さく、うすく、池と草を書いた方がいい。

Ti 何色でぬる？

たくや チョークだったら緑しかないから、緑をうすくぬって、水色はクレヨンでうすくぬればいい。

Ti ああ、やっぱり、うすーいの。こんな感じがいいわけ？ はっきりしていいの。これでどうですか？

たくや もう少し、うすい。

Ti おじさんの手、チョークだらけになっちゃうよ。どうですか。これぐらいで納得する。ほかの人、どうですか。たくや君は、これを？ したいっていうけど。はい、まゆみちゃん。

まゆみ もうちょっと草が欲しい。

Ti あ、もつと数が欲しいわけ。はい、数の注文がたよ。外の人どうですか。草がいらないうって人。僕の写真に草なんか写ってません。手を上げてみて、忘れた、なんてことじゃなくて、僕は、全然、自分は、全然、草のこと考えていませんでしたという人。考えてたという人。ああ、少し手が上がった。じゃあ、入っているんだな。みんなの写真にはね。入り方、たくや君のと、どうですか。これでもいいかな。いっていう人。何か、お話ししてくれるの？

さとし なんかわもほしい。

Ti 何色でぬるの。

さとし 水色。水色に、ちょっと黒をまぜて。

Ti あ、水色に黒をまぜて、さあ、だんだん注文が難しくなってきたよ。

たくや 道が光って、道が白っぽく、うすく、かいた

方がいい。

Ti どの辺に道おくの？ たくや君の写真。

たくや そっちの、はじっここの辺から、まん中まで、少し曲がっているの。

Ti こちら辺まで、こう曲げて欲しいの。

たくや 上から下まで。

Ti だんだんひろくなればいいの。向こうの方へ行っているように見えればいいの。ここ、つきぬけちゃ

ってかまわない？ かまわない！ その方が、どっ

ちがいい？

たくや 道、道は、ある方がいいと思うんだけど、

Ti こっちからはみ出すようなかたちでもいい？

たくや はみ出さないように、小さくていいから、は

み出さないようにした方がいい。

Ti 小さくていいから、はみ出さないでいい、という

ことは、小さくというのは、たくや君のは、おじさ

んは、だんだん消えていくんだよっていうふうにき

いたんだけど、そうかな？ だんだん——向こうの

方に見えなくなっちゃうんだよ。そういう写真じゃ

ないの？

たくや そうです。

Ti そうです。ニコニコしてくれた。外の人、たくや

君は、道入れた。どうですか、道が入ってた人。自

分の写真に入ってた人。入り方は、いいですか。た

くや君と同じですか。僕ちがうよ、自分、ちがうよ

って人。はい、ボク。今、手を上げてる四人の人に

お話してもらうからね。待っててね。

けん一 なんか、道が下の方から、上の方へ…。

Ti もっと、こう、下へ行きたいわけ？ ずうっとこ

っちへ続けた方がいい？

けん一 ちがう、こっちから、こっち。

Ti こっちから、こう、ひいた方が、君の感じに合う

わけ。ちよっと、一枚しかないから、こっちに、ち

よっと、みんなの写真、移動させてよ。君は、何て

いう名前だっけ。けん一君は、たくや君みたいに、

こっちからこう道がすうっと曲がっている方が、び

ったりいくわけ。はい、まゆみちゃん。

まゆみ それ君と、同じ方向でいいんだけど、消え

るようじゃなくて、私は、続いているほうの写真。

Ti ああ、続いているっていうと、そっちからだ、

ずうっと、止まられて言っつてよ。

まゆみ ストップ。

Ti こうなってる。ようし。どこまでも、続いているっ

てことなの。本当は、まゆみちゃんの写真は、この

四角には、おさまらないで、まだこっちにも続いて

いるよっていうふうにとりたいんだよな。

まゆみ はい。

Ti たくや君、それどうだ。君は、ここでずーっと止

めちゃったけど。

たくや それでも、いいんだけど？？が、下につく時、

そこに草がはえてないから…。

Ti もっと草の中に入っつて欲しい。なーるほ

ど。はい、さつき、約束してたよ。君。お話してち

ようだい。

てつお そっちの方でいいんだけどさあ。

Ti こういう方向でいいんだけど。

てつお 道を、二本線。

Ti ああ、こういう一本線じゃなくて、道の両わきの

境目をはっきり書いて欲しいわけ？

てつお ちがう。

Ti 二本あるわけ。

てつお つなげるように。

Ti わかれ道になっちゃうの？ 君の写真は、おじさ

んに、つたわってこないんだよ。で、二本線とい

うのは？

てつお 道と道が、つながってる。

Th この道とこの道が、つながってるってことかな？

Ti あ、こういうふうになつていけばいいの？ こ

こ、とび出しているのが、よけいなんだ。あ、こっ

ちの道にも行けるよ。こっちの道にも行けるよ。こ

っちから、こう曲がっても行けるよ。そういう道に

したいわけ。それから、もう一人、だれだっつ

け、ひろし君だっつたわけ、さつき四人約束したね。

ひろし君だっけ？ はい。ひろし君、道について何

か言いたかったんだろ。だんだん友だちにちがうこ

と言われて、おかしくなってきたかな。だけど、そ

の目は、だいたいようぶだよ。しっかりと目してる

から。思い出してみて下さい。しゃべれる？ はい、

どうぞ、しゃべって下さい。

ひろし 道には、草がはえてないんだけど、道のとこ

ろまで草がはえている。

Ti もっと——この辺に草がほしいわけ。あ、両側

に、たくや君、さつきから、お待ち遠さま。

たくや 道が少し真つすぎすぎるから、少し曲がった

方がいい。

Ti ふーん。曲がった方がいい。どう曲げようか。君

の写真は、どう曲がったんだろ。

たくや ななめと、こうやつたりして、とんがつてな

なて、こうやって。

Ti ああ、こう、くねくね——して欲しい。さあ、森

が、ちょっと待って、こっち見て、いいかい。だんだん——これは、夜の写真をつくってたんだよ。ね。で、森は、なくとも見えるよっていうのが、たくや君でした。で、ほたるをつくりたいってこと、わたしは、あつた方がいい、草原が、あつた方がいい、水が流れているところは、もっと暗い感じ、こうで来たんだけど、じゃあ、もう一回ね、もう一回読んで、本当にこれが夜の写真になつてるか、自分の写真と比べてね。もう一回、読んでみる。ぼくのつくった夜の写真、それでいいかどうか、もう一回読んでみよう。(児童、再度、黙読する。)

Th ああ、手が上がってきた。じゃあ、自分がうまくうつせたなっていうのをお話して。

Tu じゃあねえ、発表する子がいつも決まってるでしょ。で、先生は、みんなが、ここに立った、あの、めがねをかけたおじさんは、いろいろ指導してくれてたね。けども、あのおじさんも大変だったんですよ。なぜ大変かというね。しゃべる子が、もう、決まっていたでしょ。ね。外の人たちは、しゃべってくれなかったでしょ。だから、なんとかして、しゃべって欲しいなってこと、あのおじさん、きつと感じてたんですよ。ね。それから、もっと、困ったことがあるんですよ。それはねえ、みんなが思っている写真というのがね、わからないんですよ、外の人には。外の人にはわからない。僕の心には写真がうつったっていうふうに、みんな思っているんだけども、いろいろ、あそこでね、絵をつくってくれた。でもねえ、それでもまだよくわからないの。たくや君との、まゆみちゃんとの、あるいは、だれかとの、考え方が違っていたでしょ。道は、こっちだ

よ。いや、僕は、こっちだよ。なんて言っていたわけでしょ。だから、心にうつっていることっていうのはね、自分以外の人は、本当にわからないんですよ。いい。おじさんだって、わからないの。みんなが何考えてるんだろ、早く帰って、うちへ帰ってプールへ行きたいなあとかね。何考えてるんだか、さっぱりわからないの。ね、だから、今日、うつった写真は、僕の写真は、こうだよっていうことを、もっと上手に言わなくちゃわからない。みんな、まだまだ、へたくそ。おじさんたちが、一生懸命になって、あるいは、おねえさんたちが一生懸命になって、こうですか、ああですか、こうですか、って言うてるのに、みんな、一生懸命になってお手伝いしながらね、みんなの心を、のぞこう——としてたわけ、だから、今強は、君たちが、もっと上手に、こう言ったら、わかる。僕の写真は、こう言ったら、わかれば、わかる。僕は、ことを言えさずれば、わかるんだ。今、ここに、書いてくれた「心につつたすばらしい写真」ね。どがすばらしいのかっていうことを、さあ、最後にねえ、今度は、発表しなかつた子が、僕の写真は、ここがすばらしいんだよっていうことを言ってみよう。どう？ よく考えて。こう言ったら、おねえさんにもわかる。おじさんにもわかる。安田先生にもわかる。さあ、がんばって、もう少し。

Th さあ、かよ子ちゃん。

Tu ほら、一人上がつたよ、一人。ちょっと待って——、今、今まで発言して、あの、物言わなかつた人が、立った。がんばって立ってくれたよ。ほら、外の人はどう？ もう、みんな言えるか、ちょっと

手を上げて。よし、がんばって言ってやろうっていう人手を上げて。ほらほら、だって、僕にしかわからないんだよ。僕が考えて何を思ったんだらうってわからない。だから、みんながね、今度は、おじさんたちをたすけてくれなくちゃ。こういう写真がとれてるんだ。ここがすばらしいんだ。っていうことを言ってくれなくちゃ。はい、言って、——。さあ、一人立った。外に立ってる人、立って言える人。だめなのかなあ。みんな、いじわるだな、言わないんだもの。絶対、僕の写真は、僕以外には見せてやらない、こうやってんだ。見せてよ。はい、見せられる人。ほら、ほーら、ほら、じゃ、しょうがない。順番に、順番にいこう。全部きこう。

かよ子 二つの道が、わかれていた方がいい。

Th じゃあ、かよ子ちゃんの写真には、二つにわかれた道があるんですね。ほかに？ その道は、どこに続いているの？

Tu かよ子ちゃん。かよ子ちゃんが、今言つた、かよ子ちゃんの写真は、二つにわかれた道がついておればいいの？ それがすばらしいの。それがすばらしいの？ 夜だよ。——、二つにわかれる道、はっきり見えるの？ かよ子ちゃん、どうだ。わたしの写真のすばらしさは、これだっていうの言つてちょうだい。かよ子ちゃんの写真の一番すばらしいのは、どこか？ 道が二つにわかれてるのがすばらしいの？ ほんとう？ どうした？ がんばって言ってくれたのに、おじさん、おこつてしまったね。考えてるのか。じゃ、すわって考えなさい。

Th じゃ、寺崎君。寺崎君の写真は、どんなの、おしえてね。

Tu すばらしい写真を言わなくちゃだめだよ。このおじさんが、すばらしい写真、ここがすばらしいってことを言っておいて言ってるんだよ。

Th 寺崎君の中に、写真うつってる？ うつつてる？

Tu お返事は？ うつつています。うつつていません。どっち？ ああ、わかった。早く授業終わればいいのになってというのがうつってるんだ。はい、次。

Th 心の中に入ったものを言えはいいんだよ。何が見えてるのかなあ。夜の写真よ。まきちゃんは？

ほたるは、いますか？ ほたるいるの。じゃあ、どんなふうに見えるの、お話して。さつき、たくや君や、ひろし君がね。ほたるの光がね、ぼやっこしてあるんだよって言ったでしょう。ああいうふうに言えばいいのよ。まきちゃんのほたるの光は、大きいのかな、ちっちゃいのかな、とまってるのかな、ゆれてるのかな。

まき とんでる。

Th とんでる。まきちゃんの心の中にはね、ほたるがとんでるんですって。じゃあ、考えて、もう一回、写真うつしてよ。ゆうすけ君は？

ゆうすけ ほたるは、水のきれいなところにいるって言ったから、お父さんに言われたから、なんか水のところで作っておいて、ほたるを置けばいい。

Th たくや君、さつき言ったから。あ、さつきのこと、違ってきたかもしれないね。たくや君、今はどう？
たくや 横に木がだんだん？きて、木の間に…。木がまわりにあって、だんだん開いてくるようにしたらいいと思う。

Th じゃあ、ひとみちゃんは？

ひとみ ……。

Ty ひとみちゃんの写真は？

Th 何が見えるかな？ れい子さん。

れい子 全体に白をぬればいいと思う。

Th 全体に白、じゃあ、全部白っぽくしちゃうのね。

Tu はい、今、おじさん、きいていてね。えーと、何ちゃん？ れい子ちゃん、れい子ちゃんの心にうつつた写真すばらしいんだって、これが、言いたいんだと思っていたの。それを、れい子ちゃんは、全体に白っぽくして、こう言ってくれた。これが、すばらしいのよね。れい子ちゃんは、全体に白っぽくして、それを見るんだよ。おじさんにも、わかった、それが。ああ、れい子ちゃんのとった写真は、全体にもっと白っぽく、こんな黒じゃだめなんだって、こんな黒じゃだめなんだって、もっと白っぽくして、こういう写真をとってくれたんだと思うの。おじさん、こういう言葉を持ったの、全体に白っぽくして。そしたら、おじさん、わかるんだもの。ね。さあ、じゃあ、そんな言い方をするんだしたら、僕は、こういう言い方をしたら、みんなにわかるっていう人、はい、手を上げて。こういうふうにお話して、僕は、こういうふうにお話して、そしたら、おじさんにわかってもらえるっていう。れい子ちゃん、いいこと言ってくれたよ。

はい、まゆみちゃんは？

まゆみ 人と、全体っていうか、だいたい銀色っぽくぬって欲しい。銀色っぽく。

Tu だいたい、銀色っぽく、さつきは、れい子ちゃん、全体にだっただけ、今度は、だいたいになんかそうだけだね。これでも、わかる、おじさんに。だいたい、もっと銀色っぽくしろ、銀色っぽくして

ていうのは、もう、時間がないからね、おじさん、ちよつとね、他の言葉におきかえるね。銀色っぽくしていうのは、このまゆみちゃんが、とった写真は、きつとねえ、もっと光が見えてきているんだと思う。ね。もっと光ってる。こんなの光ってないでしょ。(黒板の絵をさして)もっと銀色っぽくしていうのは、銀色に光ってるといことを言おうとしているんだっていうふうに、わかる。そうじゃない？ まゆみちゃん。

まゆみ そう。

Tu ああ、よかった。そうって言ってくれたよ。ほら、手が上がった。僕は、こう言おうって人ができたよ。

たくや だんだん明るくなってきたから、さつきの木を、もっとうすっぽくして、どこかにおいたらいいと思う。

Tu だんだん明るくなってきたから、もっと…。あのねえ、もう、ここで、絵をつくらなくたっていいから。もう、これだめなのね。いくら絵を、こうやってつくってみてもね。さつき言ったように、銀色っぽくなんて、これ、できないしね。だから、もう、これは、こういうふうにつくろうってしなくていいから、たくや君の心にうつつたとおりにさつき。だんだん明るくなってきたから、もっと、うすっぽく森を、うすっぽく森を、どうするの？ これ、絵をつくるんじやないよ。

たくや うすっぽく森を…。

Tu 自分のうつつた写真を説明すればいいんだよ。

たくや かいいたらいいと思う。

Tu かいいたらいい、もう、かくんじやないよ。君の写

真のとおりを言えはいんだよ。外の人は、こう言
ったよ。だいたい、白っぽい。私の写真、もっと
白っぽい、こう言ったんだろ。だいたい銀色っぽ
くなってる。こう言ったんだろ。

たくや うすっぽい、森が、あつた方がいい。

Tu 森が、あつた方がいい、あるのか、ないのか、君
の写真には。

たくや ある。

Tu あるんだよ。あつた方がいいって言うのは、この
絵があつたから、こういうふう、あつた方がいい
って言ったんだろ。もういいんだろ。明るく
なってきたから、もつと、うすっぽい森を、つての
はおかしいね。うすっぽい森がある、だね。君の写
真にはね。こういうことだね。僕の写真には、だん
だん明るくなってきたから、これも、ちよつと変だ
けども、だんだん明るくなってきたからってのは、
どういうことですか。

たくや 最初は、暗いと思つてたけど、だんだん、
少し明るいと思つてきたから、うすっぽく…。

Tu うすっぽく、君は、絵をつくるんじゃないよ。君
の写真を言うんだよ。心の。

たくや 木が、森がある。

Tu だんだん明るくなってきて、最初は、暗いと思つ
ていた。それが、だんだん明るい。これ切っちゃう
ね。だんだん明るい僕の写真は、明るい。そして、
うすっぽい森が、ある。これでいいな。ほら、わか
つてきた。どうですか、先生。

Th わかりますね。これなら。

Tu ほら、だいぶ、わかつてきたって、うん、うまい
こといった。外に、もう少し言える人いないか？

僕の写真は、こうだ。僕のすばらしい写真は、こう
だ。僕のすばらしい写真は、こういうことだつて言
える人。おお、言った言つた、がんばつて。さ、書
くからね、おじさん。

ひろし えーと。空に、黒のような青の色が…。

Tu 黒のような青のような、ちよつとまぶさげだね、
黒のような青のようになってのは、君、夜に色ついて
るの？ 君のは。黒のような青のようになって言うけ
るの？ 君のは。黒のような青のような、はい、そ
れから？ 黒のような青のような、とまぶさげな
なあ。空に、黒のような青のような、じゃ、ちよつ
と考へてもらおう。ほかに、どうか。もうないか。

わたしの写真は、こう言おうっていうの。まゆみち
ちゃん、もう、あれでいいか、しまいか？ もつと、
こう言つておきたいっての、もうないですか。

まゆみ あるんだけど、今、説明の仕方考へてる。

Tu 考へてるわけ。そうか。だいたい銀色っぽく、
だんだん明るい。もうないですか。じゃあ、今日の
勉強は、この辺までかなあ。ほたる、どこ行つちや
つたんだ。ほたるは、ほたるどこ行つちやつたんだ
ろう。君たちの写真の中には、ほたるはもう、ほた
るはいるの？ いないの？ 見えないの？ ほたる
はいらないか？

C いる。いる。

Tu いるの？ いる？ いる人？ じゃあ、この辺で
いい。

Th みんなの話きいていて、先生もね。ぼうつと、ほ
たるの、夜の世界に入つちやつたみたい。さあ、み
んなの中にも、ほたるはいるんだね。写真の中にもね。

じゃあ、今日の勉強は、むずかしかったつて思う
人、今日の勉強むずかしかったつて思う子いる？

あ、こういうんだつたら、簡単だ、算数なんかより
簡単だつて、そういうふう思う子。わかんないな
あ、むずかしかったんだか、簡単だつたんだか。た
くや君どうだった？

たくや 少しむずかしいところもあつたし、ちよつ
と、あ、簡単どころもあつた。

まゆみ 算数の勉強とかは、かわらないけど、むずか
しきは。でも、とつても楽しかった。

Th おもしろかった。そう。じゃあ、おもしろかつた
なつて、今までこんなこと考へたことなかつたなあ
つて思つた人、手を上げてごらん。(児童 七名程
挙手。)

Th そう。何人かのお友だちは、こんなこと、今まで
考へたことなかつたなあ、算数のお勉強と違うなあ、
と思つたんだつて、そして楽しかったんですつて。

じゃあ、先生たちも、みんなからねえ、いっぱい、
ああそんなの考へるつて思ふつてありました。こんな
に、いっぱい、みんなの心にうつつた写真を見せて
もらいました。今日の勉強は、これでおしまい。で
もね、もう会うつておかないかもしれないけど、みん
なのこと、このほたるの夜の写真といつしよに忘れ
ません。さようなら。

※ 文中

Th 堀江久子(相模原市立大野北小・教諭)

Ty 安田初恵(新潟・青海町立田沢小・教諭)

Tu 上原輝男(玉川大学教授)

T肥 肥田治代(平塚市立中原小・教諭)

Ti 飯住良夫(横浜市立汐見台小・教諭)